



SALVATIONIST

とぎのこえ

2023年標語「更なる深みへ」(コロサイの信徒への手紙2章7節)



二〇二三年五月十五日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行

初夏号

広報版

2023

May-June

No.2852

2023年 救世軍標語

「更なる深みへ」

「キリストに根を下ろして造り上げられ、教えられたとおりの信仰をしっかりと守って、あふれるばかりに感謝しなさい。」

コロサイの信徒への手紙2章7節



今年のペンテコステは
5月28日(日)です

ときのこえ SALVATIONIST

初夏号 広報版
2023 May - June
NO.2852

もくじ

- メッセージ
受け継ぐものを確信する
大佐 スティーブン・モーリス …… 3
- 〔連載〕聖潔の流れに立つ 第26回
ジョン・ウェスレーの聖潔
一心うちに燃えて—
少佐 丸畑 幸夫 …… 4
- 集会報告
『聖潔を映し出す者』の学年 士官任官
式及び新任士官任命式 ……5
- 証言
任官されて 中尉 吉田慎也 ……6
- 集会報告
ユース・セミナー2023、イースターコ
ンサート …… 7
- 各地のニュース!!
京都小隊、女性部、関東東北連隊 ……8
医療部、桐生小隊 ……9
- YP(青少年部)・ファミリーニュース
中高生キャンプ、杉並小隊 ……10
高知小隊、渋谷小隊 ……11
- 〈連載〉各地の小隊から 第6回
高知小隊 ……11
- 社会鍋による支援
仙台小隊、新潟小隊 ……12
トルコ・シリア地震救援社会鍋 ……12
- 〈連載・第20回〉
神の呼びかけ～神の民となるために～
(7) 内なる生活への呼びかけ ……13
- 救世軍見解表明
社会道德に対する救世軍の立場
第9回「人種差別」(2) ……14
- 救世軍公報、召天記事 ……15
- 各地のニュース!!
医療部・社会福祉部・本営 ……15
- 最高会議 その内容／集会案内 ……16



@SArmyJP



SArmy_JP



救世軍
The Salvation Army

きりとり

- 『ときのこえ』購読を申し込みます。
(1年分1140円。税込、送料別)
- キリスト教についてもっと知りたいです。

ご氏名 _____

ご住所 _____

表紙の写真：新任士官任命式で
任命を受けた吉田慎也中尉

メッセージ「新任士官任命式より」

受け継ぐものを確信する

ペトロの手紙一 一章一三〜一六節

司令官 ステイブ・モーリス

神に全く身を献げた人を、神は用いることができます。神に自分の人生を献げた時に、神がその人を通してなされる御業に限りはありません。『聖潔を映し出す者』の学年の聖句となっているペトロの手紙一を読んでいる

の甥が叔父さんによく似ているからです。そのようにわたしたちも、神の聖さを映し出す者になるようにと招かれています。コリント二 三章一六〜一八節にそのための道しるべが記されています。

「しかし、主の方に向き直れば、覆いは取り去られます。ここでいう主とは、霊のことでありますが、主の霊のおられるところに自由があります。わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。これは主の霊の働きによることです。」

「覆い」というのは、モーセが神から十戒を受け取った時に顔が輝き、それを隠すために覆いをかけたということに基づいています。「主の方に引き直れば、覆いは取り去られます。……主の霊

の光が叔父さんによく似ているからです。そのようにわたしたちも、神の聖さを映し出す者になるようにと招かれています。コリント二 三章一六〜一八節にそのための道しるべが記されています。

「しかし、主の方に向き直れば、覆いは取り去られます。ここでいう主とは、霊のことでありますが、主の霊のおられるところに自由があります。わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。これは主の霊の働きによることです。」

わたしたちは皆が「聖潔を映し出す者」となるよう招かれています。今日イエス・キリストが生きていたならば、その姿がどのようなものであるか、それをわたしたちが映し出すようにと召されているのです。アメリカ・テキサス州にアラモ砦という場所があり、その砦には、かつてそこであった激しい戦いを生き残った戦士たちの絵が飾られています。その中の一枚は、ある兵士の代わりに、その人の甥の肖像画が掲げられています。というのも、そ

「しかし、主の方に向き直れば、覆いは取り去られます。ここでいう主とは、霊のことでありますが、主の霊のおられるところに自由があります。わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。これは主の霊の働きによることです。」

わたしたちはだれも、決して楽な毎日を過ごしているわけではないでしょう。しかしわたしたちはどのよ

うな状況にあっても、主の聖さを映し出して生きることができるとは違っても、わたしたちはだれも、決して楽な毎日を過ごしているわけではないでしょう。しかしわたしたちはどのよ

うな状況にあっても、主の聖さを映し出して生きることができるとは違っても、わたしたちはだれも、決して楽な毎日を過ごしているわけではないでしょう。しかしわたしたちはどのよ

うな状況にあっても、主の聖さを映し出して生きることができるとは違っても、わたしたちはだれも、決して楽な毎日を過ごしているわけではないでしょう。しかしわたしたちはどのよ

成長していく、継続的な経験です。神が造りかえてくださることを信じて、神の意図された者になっていきたいと願う必要があるのです。主を信じ、祈り、御言葉を通して、わたしたちは神に似た者へと造りかえられていくのです。

有名なクリスチャン作家のマックス・ルケードはこう言いました。「神はありのままのあなたを愛しておられる。しかし、神はあなたをあまりに深く愛しているため、あなたがあなたのままにとどまっているように放っておかれない。神はあなたが、イエスに似た者になることを願っておられるのだ。」聖潔を映し出す者、イエスに似た者になる。あなたの言葉やふるまいがこれまでとは違ったものになり、イエスに似た者になるなら、人々はそれを見て、何かが違うと思うでしょう。またあなたの意図も、イエスに似た者になりたいという純粋なものに変えられていくでしょう。それは聖霊があなたの内に働いてくださることによって実現するのです。

さて、「栄光から栄光へ」、栄光が増し加わるとはどういうことでしょうか。最初、わたしたちには栄光など全くありません。わたしたちが消え去るところに主の栄光が増し加わっていきます。この地上で、わたしたちの内

にイエスが生きてくださればくださるほど、その栄光が増し加わっていくのです。聖霊が働いてくださいます。わたしたち皆がそのようになることを神は願っておられるのです。

アラモ砦に掲げられている肖像画のように、イエスの栄光を表す者として、わたしたちの姿が掲げられるとしたらそれはどんなに興味深いことではないでしょうか。もちろん顔かたちがということではありませんが、吉田中尉の、また皆さんの姿がイエスの姿を映し出すものとなるのです。わたしたちが人々に仕える時、人々と一緒に働く時、人々とやりとりをする時に、どうかわたしたちが、イエスの姿を映し出す者となりましょう。

月が夜空に煌々と輝いていますが、実際には、月そのものから光は発せられていないのです。何千キロの彼方にある巨大な岩の塊である月がわたしたちの目に輝いて見えるのは、月が太陽の光を反射しているからです。イエス様が、聖霊がわたしたちを変えてくださるのもそれと同じです。吉田中尉、どうかあなたの学年名を本当に大事にしてください。古い生き方に戻りそうになると感じる時、「聖潔を映し出す者」という言葉を思い出してください。サタンが、おまえはそんな者ではないという時にこそ、この言葉に立つて、自分はこの世界に対して聖潔を映し出す者であると確信してください。そしてそれを見た他の人も、あ自分もイエスを映し出す者になることができるのだ、と思うようであってほしいと願います。

吉田中尉は、大切な神の働きのために、救世軍の中で用いられていることとしています。救世軍士官として献身するように語りかけられていく人があるなら、応答してほしい。吉田中尉のみならず、どうかわたしたち皆が、人生の最後まで主に忠実に歩んでいくことができるようにと祈ります。

吉田中尉は、大切な神の働きのために、救世軍の中で用いられていることとしています。救世軍士官として献身するように語りかけられていく人があるなら、応答してほしい。吉田中尉のみならず、どうかわたしたち皆が、人生の最後まで主に忠実に歩んでいくことができるようにと祈ります。

吉田中尉は、大切な神の働きのために、救世軍の中で用いられていることとしています。救世軍士官として献身するように語りかけられていく人があるなら、応答してほしい。吉田中尉のみならず、どうかわたしたち皆が、人生の最後まで主に忠実に歩んでいくことができるようにと祈ります。

吉田中尉は、大切な神の働きのために、救世軍の中で用いられていることとしています。救世軍士官として献身するように語りかけられていく人があるなら、応答してほしい。吉田中尉のみならず、どうかわたしたち皆が、人生の最後まで主に忠実に歩んでいくことができるようにと祈ります。

吉田中尉は、大切な神の働きのために、救世軍の中で用いられていることとしています。救世軍士官として献身するように語りかけられていく人があるなら、応答してほしい。吉田中尉のみならず、どうかわたしたち皆が、人生の最後まで主に忠実に歩んでいくことができるようにと祈ります。

吉田中尉は、大切な神の働きのために、救世軍の中で用いられていることとしています。救世軍士官として献身するように語りかけられていく人があるなら、応答してほしい。吉田中尉のみならず、どうかわたしたち皆が、人生の最後まで主に忠実に歩んでいくことができるようにと祈ります。

連載

聖潔の流れに立つ 第二十六回

ジョン・ウエスレーの聖潔
— 心うち燃えて —

少佐 丸畑 幸夫



(承前) ウエスレーは学生時代に友達とは違った規則正しい生活を好み、朝四時に起床する習慣を養い始め、その後六十年間、それは変わらなかつた。その生活ぶり、同輩からメソジストと呼ばれ、「几帳面な徒」と評名された。これが彼の代名詞となり、後にこれが「メソジスト」と称される教派名となった。彼が思弁的というよりも、人格的に宗教を捉えていたことがわかる。その頃、ウエスレーの協同者としてメソジスト運動にとつて偉大な貢献をしたホイットフィールドが加わつたことは特筆すべきことであつた。

ウエスレーは弟チャールズ及びホイットフィールドら数名と共に教会の規律を忠実に守り、その几帳面さが評価された。

ホイットフィールドが米国のジョン・ササン・エドワーズによつて、ピューリタンの敬虔主義の色濃い影響を受けていたことが、後々ウエスレーとホイットフィールドに間隙をつくることとなる。これが、カルヴァニズムとウエスレーの「聖潔」の概念の違いとなつて現れてくる。

ウエスレーの信仰日誌をひもとくと、北米に植民地としてジョージアが創設されて約三年後、創設者である知事は帰英して、適当な宣教師を招聘したことが記されている。その白羽の矢を立てたのが、「神聖クラ

ブ」の指導者ウエスレー兄弟たちであつた。

知事はエプワースにいるウエスレーの母親に意見を尋ねたところ、彼女は「もし、自分に子どもが二十人いて、全員が招きに応じたとしても、彼らにこの地上で再会できなくても、私は彼らが神様のご用に立つことを喜びます」と答えたそうである。

一七三五年十月十四日、ウエスレー兄弟は他に選ばれた二人と共に、伝道心に燃え、祖国に別れを告げ、モラビアン監督に引率されて、二十六人の同教徒と共にジョージアに向かつた。彼らモラビアンの人たちが敬虔で単純質素な生活を営んでいるのを見て、ウエスレーは感動した。

ある時は、暴風雨に見舞われ、船は木の葉のように揺れ、船窓から大波が打ち寄せた。英国人たちは泣き叫び、醜態の限りを演じた。ウエスレーたちも落ち着きを失い、沈没を恐れたが、一方、モラビアンの人たちは穏やかで、静かに詩編を口ずさんでいた。当時、船旅は長かつたので暴風雨に見舞われることはよくあつた。後日、ウエスレーが彼らに「恐ろしくなかつたのですか」と尋ねると、無教育な彼らであつたが、「神様に一切をお任せしているので、女性たちや子どもたちも、死ぬことを恐ろしいとは思っていません」との敬虔、単純な返事だつた。ウエスレーは彼らの徹底した「恐れを除く全き愛」をもつ信仰的態度に敬服した。

このドイツ敬虔派の人たちとの接触は、ウエスレーの思想に深い影響を与えた。この優れた生活態度と死の暗黒を恐れない勇氣に感動し、後にモラビアン本山に巡礼する素地が養われた。

八週間にわたる航海の後、一七三六年二月六日にジョージアに着いた。

渡米前のウエスレーを神学的素質から見ると、カトリック教会からの影響を受けたハイ・チャーチ・アングリカニズム(英国高教会派)、すなわち教会の権威・支配・儀式を重んじる立場を採っていた。その頃の彼には、禁欲主義が濃厚に顕れていた。礼典を重んじ、

善行に励み、それによつて神の恵みを獲得することにより、完全に向かうことを大切なこととしていた。ここで、規則正しい生活の最善のものが養われたようである。

やがて、彼は一七三六年より一七三八年まで米国ジョージアで、移民とインディアンの間で海外福音宣教会宣教師として伝道したが、英国高教会の宗教性を新大陸に求めたため、ウエスレーは自分の精神生活が意外に薄っぺらなことを意識した。あまり成果をあげることができず、全体として失敗に終わったため、自信を失つた。そこで止むを得ず、ロンドンに帰ることとなつた。しかし、ホイットフィールドは彼の米国での業績を評価している。

四、悶える魂の黎明

「わたしはあなたの祈りを聞き、涙を見た。」(列王記下20・5)

その頃のジョン・ウエスレーは信仰上の未熟さや律法的高教會的精神の押しつけ伝道による失敗と、米國で出会つた女性との期待した恋に破れ、内面的に煩悶し、苦悩の色濃い状況にあつた。この時代の彼は、根深い信仰的訓練が十分ではなかつたのである。

帰路にも暴風雨に見舞われた。船中でモラビアン派の宣教師に出会い、そこでも、嵐の中、死を恐れない信仰的な姿に啓発された。ウエスレーはこう記している。「彼らは実に善良で柔和な、天国の住民のような美しい心をもつた人たちです」と。

この経験から神との交わりを深めた。信仰を知的に理解するだけでは十分でなく、より内面的・靈的に体験する必要があることを教えられた。これを機に、彼はモラビアン派の人々と接触することが増え、新生への生涯に導かれていった。

一七三八年五月二十四日、ウエスレーはロンドンのアルダスゲート街、モラビアン派の教会の祈祷会に出席した。ここで悶える靈魂の夜明けを経験した。

集会 報告

『聖潔を映し出す者』の学年 士官任官式及び新任士官任命式

3月19日(日)午後3時 山室軍平記念ホール

穏やかな晴天となった日曜日の午後、山室軍平記念ホールに戦友方が集い、対面を主としておこなわれました。士官任官式—ジャパン・スタッフ・バンド(JSB)の演奏するマーチに合わせ、本営軍旗に続き、学年旗を掲げて吉田慎也候補生が入場。司令官スティーブン・モーリス大佐と軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐が高壇上で迎えました。司会の士官学校長代行添田美和少佐のリードで会衆賛美(『救世軍歌集』352番)の後、志村佳夫書記(京橋)が祈りを献げました。士官学校教官中島美和大尉による学年報告に続いて、任官の時。士官学校教官山谷昌子少佐が信仰宣言を導き、教理の確認の後、司令官と軍国女性部会長の導きで、吉田候補生は救世軍士官として任官され、中尉に任じられました。書記長官西村保大佐補が祈りを献げ、新任中尉と士官学校スタッフが献身の歌「主はするどく問いたもう」(『救世軍歌集』219番)を歌いました。2年間の学びと訓練を終えた吉田中尉は、学年旗を司令官に返還しました。

続いて、スクリーンに写真が映し出され、新任中尉の歩みが紹介されました。青年時代の生き方、刑務所でのイエス様との出会い、天満小隊から士官学校入校へ導かれたこと、士官学校での訓練の様子など、神様の導きを明らかに示す証しのプレゼンテーションでした。

新任士官任命式—中尉の制服を着た吉田中尉がJSBの演奏に合わせて入場し、会衆は拍手で迎えました。「わがもてるすべてを」(『救世軍歌集』241番)を歌い、献金の時を士官学校教官坂本恭子少佐が導きました。続いて銀星章の授与。銀星章書記石川芳子少佐が、この章について説明をし(子女を救世軍士官として献げたご両親へ感謝を表すもの)、吉田中尉とご両親が高壇に上がりました。司令官から銀星章証書と記念品の聖書が手渡されました。ご両親

の涙と笑顔に一同が感動を覚える時でした。

吉田中尉が証言をし(6ページに掲載)、学年の歌「とらわれていたあの部屋で」を歌いました。作詞者で吉田中尉をキリストに導いた清原修牧師も出席しておられ、真実な証言の歌を通し主を賛美しました。いよいよ任命の時。司令官夫妻は新任中尉を「佐野小隊士官補佐及び

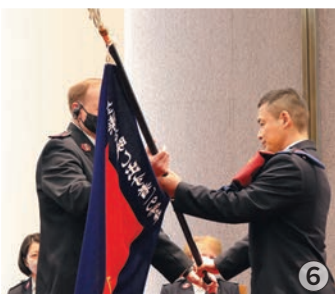
関東東北連隊本部付(兼)」に任じました。献身の祈りを軍国女性部会長が献げ、士官として最初の任命を受けた吉田中尉と、任地の戦友方のうえに祝福を祈りました。

石川里志曹長(上野)が聖書朗読(ペトロー1:13~16)をし、「受け継ぐものを確信する」と題し司令官がメッセージしました(3ページに掲載)。

書記長官の導きで祈祷会がもたれ、最後に軍国女性部書記西村和江大佐補が祈りを献げました。JSBによる祝

祷の演奏「主があなたを照らし」に会衆も声を合わせて歌い、恵みの集会を閉じました。

(会衆133人、うち子ども9人、恵の座10人。録画版YouTube視聴回数467回、4月10日現在)



- ①本営旗手勝隆大尉(左)と、入場した吉田候補生
- ②添田美和少佐
- ③志村佳夫書記
- ④任官のとき
- ⑤献身の歌を歌う吉田中尉と士官学校スタッフ
- ⑥学年旗の返還
- ⑦銀星章の授与
- ⑧学年の歌を歌う吉田中尉
- ⑨司令官と通訳の山谷真少佐
- ⑩石川里志曹長
- ⑪西村保大佐補



ハレルヤ！ 今日この特別な時を心より感謝いたします。

私が刑務所の中で救われた時、「将来、イエス様の救いを伝える者になりたい」ということを強く、強く、抱いたことをきのうの事のように鮮明に覚えています。そして、思い続けていたことがきょう、実現しました。

任官されて

(新任士官任命式にて)

中尉 吉田慎也



神様は、私に「伝道者になりたい」という気持ちが起こるように目を覚ましてくださいました。その目を覚ましてくれただけではなく、通うべき教会は「救世軍」だという示しを与えてくださいました。本当に感謝です。きょうのこの日、何もかもがすべて神様のご計画の中で進められてきたことを実感しております。今、振り返って見ると、刑務所の中、そして出所してから働いて、天満小隊へ通い、そして士官学校に入校してから、その時その時に合った、お祈りをしてくださる方や協力者、そして霊的な助言をしてくださる方を与えてくださっていたということがよくわかります。そして、何人の協力者が与えられたのか……と一人ひとりの顔を思い浮かべました。協力してくださった方の中には、顔も見ただけで知らない人も複数名おられます。本当に感謝に感謝を重ねる思いであります。

そして、神様は私が罪を犯す時も私を愛してください、忍耐してください、自分の周りで任官任命の音が聞こえ始めた昨年未あたりから、サタンの攻撃と思われることが度々ありました。手口は巧妙なもので、すぐに「アレ!?!」と思うものもあれば、気がつかずに後から「アレ!?!」と気がつく場合もありました。

しかし、このサタンの激しい誘惑などを通して「自分は鍛えられていってるな」と感じさせられました。そして、本当に『救世軍歌集』(一九番の「主のたすけなくばわれはほろぶべし」という歌の詞を噛みしめることが何度も何度もありました。そのように厳しい中で神様との交わりを深める時もあれば、逆に楽しくと言いましようか、『ときのエ』(発射(文書伝道)や募金に行くのが自分は好きなので、外へ出てリラックスし、その時に神様との交わりをいっそう深めることができ、ということも度々ありました。

この士官学校での二年間は神様がいつも共におられることを、より深く実感する時でありました。一人で生活していましたが、正直いって孤独を感じることもありました。そんな時、神様は「お前が孤独を感じる時は、この世のことだけに目を向けている」と言われます。そのたびに「ハッ!?!」とさせられました。この事を通して神様は常に共におられることがわかります。

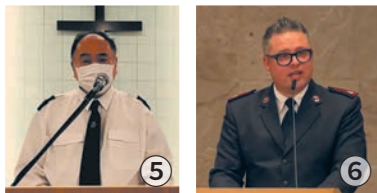
今、救世軍に限らず様々な所で牧師になる人が少ないと言われてます。理由はいろいろとあることでも、何か妨げがあったり、あれも足りないこれも足りない、あれがしたいこれがしたいの思いがあるかもしれない、そして現在、迷いの中で揺れている人がいるかもしれない。私はこの二年間で今まで以上に更なる確信を得ました。それは、神様の召しの声にお従いするのであれば、迷いの中で揺れ動くことなく、本当に必要な時に必要に応じて備えを成していただけのことです。

最後に、私の献身の際に神様が示してくださいました御言葉を讀み、証言とさせていただけます。

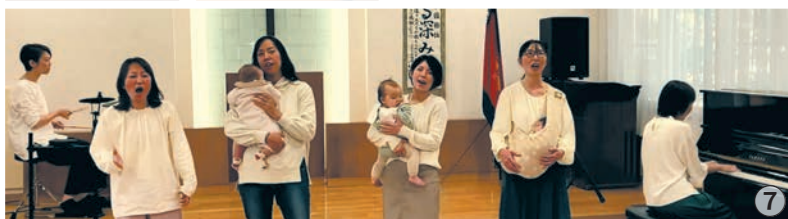
プログラムにも書かれています。ローマの信徒への手紙六章一三節後半です。「自分自身を死者の中から生き返った者として神に献げ、また、五体を義のための道具として神に献げなさい。」ハレルヤ!

イエスを信じる者は、主の復活に結ばれ、主と共に生きる恵みに与っていることを力強くメッセージしました。帯広小隊ママゴスペルの賛美「御名をかかげて」(録画)をもって集会を閉じました。御言葉と音楽を通して、主イエスの十字架と復活、その恵みが伝えられました。(視聴回数 951 回、4月13日現在)

動画は救世軍公式 YouTube チャンネルで視聴できます。



- ① JSB の演奏
- ② 石川和男少佐 ③ 石川節子少佐
- ④ JSS の合唱 ⑤ 坪川兵士
- ⑥ ダニエル・テンブルマン - トウエルズ少佐
- ⑦ 帯広小隊ママゴスペル



救世軍士官に— あなたは召されていませんか？

今、新しい時代を担う候補生を求めています。救世軍士官として奉仕するよう、神様から召命を受けている方は、小隊士官または下記士官志願者部までご連絡ください。 ※原則として18歳から48歳まで

救世軍本営 士官志願者部

電話 03-3237-0881

士官学校2024年度

『契約の保持者』の学年(エレミヤ31:33)

集会 報告

ユース・セミナー2023 3月10日(金)～12日(日)

会場：杉並小隊・総合センター別館(アネックス)

イースターコンサート 4月9日(日)午後5時 YouTubeライブ配信

●ユース・セミナー2023

「信仰生活って、何なん？」のテーマのもと、おこないました。テーマ聖句はヘブライ11:1「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです」でした。今回は、対面のみで開催となり、講師は昨年続き、大嶋重徳師・裕香師(元KKG 総主事、現鳩ヶ谷福音自由教会牧師)をお招きしました。すべてのセッションの講演をご夫妻でしてくださいました。

3月10日(金)セッション①恋愛と結婚について。結婚までの期間だけではなく、結婚後の夫婦関係の歩みについて話されました。

11日(土)午前セッション②小隊生活を守ることに。小隊の人たちに祈られている存在として導かれるように、祈られていることを覚えることができるよう、話されました。午後セッション③進路選択について。自分で祈って、自分で決めていくことができるように話されました。各セッションで講演とともに分かち合いの時をもち、最後に大嶋重徳師・裕香師との質疑応答がなされました。参加者からは「今まで言えなかったことが言えた」、「慰めや励ましをいただいた」という声が聞かれました。

12日(日)はユース・セミナー聖別会として守り、大嶋裕香師が証言をし、信仰をもった後にも抱えていた葛藤について、分かち合ってくださいました。青少年部長朝澤義人大尉が出エジプト記3:11、12からメッセージをし、モーセの生涯を通して、逃げまどう人生から、「わたしがあなたと共にいる」と言ってくださる主と共に歩む人生に変えられることを語りました。続く祈りの時は、個人で、また、グループで祈りました。

21歳から45歳と幅広い年代が集まりましたが、この

期間、神の家族が共に集う、特別な空間と雰囲気を楽しみました。今まで話したことのなかった人と、積極的に分かち合う姿もありました。大きな恵みを感謝し、散会しました。(参加者36人、青少年部報)



●イースターコンサート

主イエス・キリストの復活を祝うイースターの午後にライブ配信されました。司会は伝道事業部長石川和男少佐。ジャパン・スタッフ・バンド(JSB)の演奏「カルバリのキリスト(アニー・ローリー)」で開会し、キリストの受難と復活についての聖書が副伝道事業部長石川節子少佐によ

り朗読されました。朗読の合間にJSBのライブ演奏3曲、ジャパン・スタッフ・ソングスターズ(JSS)の合唱(録画)2曲があり、JSSメンバーの加藤信一楽隊員(月島)、帯広小隊の坪川智兵士、JSBメンバーの小島未来楽隊員(杉並)がそれぞれの信仰の証言をしました。来日したばかりの士官学校長ダニエル・テンブルマン・トゥエルズ少

佐がコロサイ3:1～4より、「キリストと共に復活させられた」と題してイースターの意義について語り、主



NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

京都小隊

●丹後分隊 木本名誉分
隊曹長 感謝式

2023年3月末の京都小隊丹後分隊の閉鎖に伴い、感謝式を3月21日



女性部

●世界祈祷日

3月3日(金)の世界祈祷日は台湾の世界祈祷日委員会が作成した式文を用いて、エフェソの信徒への手紙に基づく「あなたがたの信仰について聞いています」のテーマで、全国各地で祈りが献げられました。

東京集会は救世軍の担当で、山室軍平記念ホールよりオンライン (Zoom) で配信されました。東京東海連隊女性部書記石川節子少佐が司会をし、本営女性部の士官と世界祈祷日委員会の委員方が式文を朗読し、横浜小隊士官徳永幸次郎少佐がメッセージを担当しました。東京集会の様子は救世軍公式YouTubeチャンネルで視聴できます。(参加アカウント数86、会場28人)



●国際女性デー

3月8日(水)の国際女性デーにあたり、英国ロンドンの万国本営では「海の水位は上がっている、わたしたちも立ち上がろう」というテーマで、各国の救世軍に属する33人の女性の証言の展示会が開催されました。日本からは静清小隊の児玉恵小隊女性部会計の証言が掲示されました。また万国女性部は、この機会に「バトル・クライ」として、今後、各国の女性の働きが重点的に焦点

部小隊戦友からのメッセージが動画を通して贈られました。

その後、分隊として最後の礼拝をおこないました。礼拝には分隊曹長の長男、木本勝幸さん夫妻、当時の日曜学校生徒であり、その後は協力者として木本夫妻の働きを支えてこられた田宮清美さんと木本正久さんが集いました。粟飯原順大尉が紙芝居を用いてザアカイの話をした後、ルカ19:1~10から「ザアカイの救い」と題して説教をしました。礼拝後のティータイムでは、過去に家庭集会ビデオ、昔の日曜学校の写真の数々をスライドショーで見て、懐かしい振り返りの時をもちました。木本正久さんは「小学校5年生から82歳まであっという間の70年間でした。いつも神様がおそばにいてくださって見守ってくださったからこそ…」と感謝の言葉を述べられました。



関東東北連隊

●軍旗献納

4月3日(月)、歓迎及び送別士官会で、連隊の行事及び儀式用の軍旗の献納式がおこなわれました。



をあてる社会正義の3つの課題について発表しました。以下の3つです。①誰でも医療サービスを受けられるようにすること。女性の健康についてのより良い理解を広めること。②教育や能力開発の機会を増やし、そのスキルと労働力に対して公正な報酬を与えること。③女性と少女に対する暴力の撤廃に尽くすこと。



医療部

●清瀬病院 84周年記念集会

3月1日(水)、清瀬病院は創立84周年を迎えました。



当日午後より元医療部長吉田真中將を招き、清瀬小隊会館にて記念集会をおこないました。引地正樹事務長の司会、稲葉裕院長の挨拶の後、6人



左から、永年勤続表彰を受けた職員の皆さんと、稲葉院長、吉田中將



の職員の永年勤続表彰をおこないました。吉田真中將はマタイ 25:31～40から「小さい者の一人に」と題してメッセージしました。清瀬病院の新しい年度を迎えるにあたり、職員一同心を新たにする時でした。(38名)

●稲葉院長送別礼拝

3月28日(火)、清瀬病院医師として9年2カ月、その内院長として6年間務められた稲葉裕院長の退任に伴い、送別礼拝を清瀬小隊会館でおこないました。引地事務長の司会で進められ、書記長官西村保大佐補が祈りを献げ、チャプレンの張田直子少佐より感謝の言葉が述べられました。稲葉院長はローマ 8:28から最後の奨励をお話くださいました。司令官スティーブン・モーリス大佐より稲葉院長への感謝の言葉と祈りが献げられました。清瀬病院職員と共に、司令官及び軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐、医療部経営会議員、清瀬地区の施設職員及び引退士官など多くの関係者が集い、感謝を述べました。(53名)



桐生小隊

●イースター聖別会、召天者合同記念会

4月9日(日)、午前11時より聖別会をおこない、席上、大里忠弘曹長、西川康之書記、野村しげ子副会計(ときのこえ軍曹兼)の下士官任命式が、連隊長藤井健次大佐補の司式によりおこなわれました。(会衆13人)

イースター昼食会は、有志によりプルコギとイースターエッグが振る舞われ、交流を楽しみました。

13時半からは、墓前において召天者合同記念会がおこなわれました。9名の召天者を偲びつつ、連隊長がヨハネの黙示録2章1～4節より、「新しい天と新しい地」と題して、復活の命あすかに与る祝福について説教しました。(16人)



5月
青年デー
(各連隊)

詳細は小隊でご確認ください

5月、6月
女性部ラリー
(各連隊)

救世軍
女性の働き

詳細は小隊でご確認ください

YP (青少年部)・ファミリーニュース

中高生キャンプ

3月31日(金)～4月2日(日) 会場：奥多摩福音の家

テーマ聖句：「古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」(コリント二 5:17)

中高生だけを対象にしたキャンプは、初めての試みでしたが、全国から14人の中高生が集いました。期間中、全体を3つのグループに分け、ゲームやディボーション、共に祈る時をもち、関係を深めることができました。最初は緊張した面持ちの参加者でしたが、初日のウェルカム・ナイトでは、チーム対抗のゲーム大会で盛り上がり、すぐに打ち解けることができました。青少年部 朝澤まりこ大尉によるメッセージで、「どんな時に神様がいると感じるか、どんな時に神様がいないと感じるか、神様がいないと感じる時、本当に神様はいないのか」と問いかけ、このキャンプを通して、この問いを思い巡らすことを勧めました。そして聖書の歴史を通して、神様の偉大さを語りました。



2日目はディボーションから始まり、「聴くドラマ聖書」アプリを用いて、全員で聖書の朗読に耳を傾け、その箇所について、分かち合い祈り合う時をもちました。その後、チームに分かれて、奥多摩全域をエリアにウォークラリーをしました。チーム対抗で、何箇所も設けられた加点ポイントを車や電車を駆使しながら回り、歩数を競い合いました。自由時間は、思い思いにスポーツやカードゲーム、賛美などをして交わりを深めました。夜のプレイズナイトでは、各チームがどのような作戦と



ルートでウォークラリーを回ったかプレゼンをし、チームで自撮りした推しの写真を紹介し、さらなる加点を狙いました。そして結果発表があり、お互いの善戦を称え合いました。帯広小隊士官樋口潔中尉は、これから進級進学するにあたって、何を頼りにすればよいか、ウォークラリーを例えに、いかに信頼できる地図、案内人が必要であるか御言葉を語りました。その後、それぞれのチームに分かれて祈りの時が導かれました。



最終日もディボーションから始まり、共に御言葉に耳を傾け、分かち合い、祈り合う時をもちました。派遣礼拝では、参加者一人ひとりがひとことずつ、キャンプの感想や証言をして、青少年部長朝澤義人大尉が御言葉を語り、招きに応じて参加者は信仰を表明しました。

今回、「強くあれ、雄々しくあれ」という賛美を繰り返しキャンプの中で賛美しましたが、参加者の多くが中学校や高校に進学するという、新たな環境に入っていくタイミングであり、その前にキャンプを通して、神様がいつも共におられること、恐れることはない、ということを確認し、神様と一緒に新たなスタートを切る機会となったことを心から感謝します。(青少年部報)

今回、「強くあれ、雄々しくあれ」という賛美を繰り返しキャンプの中で賛美しましたが、参加者の多くが中学校や高校に進学するという、新たな環境に入っていくタイミングであり、その前にキャンプを通して、神様がいつも共におられること、恐れることはない、ということを確認し、神様と一緒に新たなスタートを切る機会となったことを心から感謝します。(青少年部報)



杉並小隊

●「杉並みんなの食堂」スタート

4月4日(火)子育て支援「杉並みんなの食堂」の第一回をおこないました。地域の子育て世代、高齢の方、誰かと一緒に食事をしたい人へ広く案内をしました。株式会社サウザンドデザイン代表取締役社長の太田垣道宣さんのサポートで始まりました。

カレー弁当はブース病院の栄養課の皆さんがつくってくださり、「とてもおいしくて、子どもたちがいつもよりたくさん食べた!」と喜ばれました。小隊の第二ホールには



エートインコーナー、お絵かきコーナーを設置しました。

地域の方もボランティアに来られ、温かい雰囲気の中で、楽しくおこなうことができました。まだ始まったばかりの働きですが、これから続けていき、地域に根差した働きになるようにと願っています。(配布：102食)



高知小隊

●宇佐の海辺礼拝

2022年10月23日(日)、太平洋が見渡せる横浪半島(足摺岬と室戸岬のほぼ中間に位置する美しい海岸)の海辺のベンチに腰かけ、広く澄んだ空、青く雄大な土佐の海、爽やかな秋晴れの風に、聖霊の臨在を感じながら守りました。メッセージ「偉大な神様!」に沿って、全員が感謝を証しし、天地万物を造られた主を崇めました。



●野外礼拝&さくらお茶会

2023年3月26日(日)、小隊近隣の高台「みはらし通り」に咲き始めた桜を見渡しながら、戦友宅の協力を得て聖別会を守りました。神様の摂理、恵みを全員が証言。「狭き門を通らなければ天国に入ることはできない…」の御言葉、千利休さんの造られたお茶室の由来を通して「謙遜」についてメッセージがなされました。

聖別会終了後、お抹茶をいただきながら、和やかな「さくらお茶会」。他小隊から、また、小隊近隣の姉妹も出席され、神の家族としての温かな交わりの時となりました。

渋谷小隊 ●進級お祝い

4月9日(日)、聖別会の席上、進級お祝いの時をもちま

した。冠野由紀子 YP 曹長がその日集っていた子どもたちにお祝いを渡し、勝笹実香大尉が新しい歩みのために祝福のお祈りをしました。



連載

各地の小隊から 第6回 高知小隊

小隊士官 加茂あづさ大尉

高知県は輝く太陽と青い海、緑深い山々と、美しく豊かな自然に恵まれています。坂本龍馬や吉田茂、牧野富太郎(NHKドラマ「らんまん」放映中)など数多くの先人を輩出してきた歴史・風土があります。自由で豪快な気風、アイデア豊かな土佐人の行動力と知恵は、様々な園芸・産業を生み出し「よさこい祭り」に代表される個性的な文化も発展させてきました。

高知小隊は、高知県中央の中心地(大橋通り)に1917(大正6)年7月開戦。1945年、戦災で全焼するも1954年、戦友の熱心と忍耐をもって高知城下の追手筋にて再開戦。1989(平成元)年には、現在の中万々地区へ移転、新会館が建堂されました。今年7月で開戦106年目を迎えます。

台風と雨量の多い高知県では、開戦直後から迅速な慰問が多くなされてきました。観光名所「足摺岬」は、その景観とともに昭和30年頃より「自殺の名所」となり、救世軍渭南分隊(高知県土佐清水市の分隊)では、西四郎分隊曹長夫妻が長年、自殺を試みた人々の救済にあたりました。生きる決心をし、渭南分隊から高知小隊へと託されてくる方に、小隊では「魂の救済」に努め、兵士入隊へ導かれる方もありました。

平成となり、新会館献堂と時代の変化に対応し、会場提供によるヴァイオリン教室・ピアノ教室・パン教室(有料)が地域に開かれました。ブライダル(結婚式)は、広

くクリスチャンでない人々も受け入れ、カウンセリング、リハーサルを経ての挙式を数多くおこないました。高知刑務所での教誨師として尽力した士官もありました。その後、ブライダルはキリスト教式から人前結婚式が主流となり、各教室と共にその働きを休止。一方で学校帰りの子どもたちへの「安心できる居場所」として小隊が開かれ、福音を伝えました。

2017年7月に100周年目を迎え、「開戦100周年&新会館献堂30周年記念集会」を開催(2019年11月)。天満小隊バンド&タンバリン隊の応援を受け、小隊近隣約1キロを行軍。2020年からのコロナ禍では、折に触れて三密やソーシャルディスタンスの煩わしさから解放される野外礼拝を守ってきました。地域の児童養護グループホームへのコロナ支援も継続しています。



歴史の節目節目で地域の教会牧師や信徒方も高知小隊を支えてくださいます。これは「自由で開かれた高知らしい気風」とも感じます。コロナ感染対策の方針も大きく変わり始めた2023年、神様の新しいご計画の実現を祈り、前進したいと願っています、ハレルヤ!



社会鍋による支援 仙台小隊

●子ども食堂支援

2月18日(土)に障害者就労支援施設きらら女川の「おらほの女川食堂」に社会鍋資金から支援をさせていただきました。子ども食堂の働きが始まっ

てから6年が経つということで、多い時で40人以上の子どもたちが参加されているそうです。ボランティアの方やスタッフの大人の方たちに見守られ、子どもたちや保護者が安心できる居場所になっています。この日、見学も兼ねてクッキングに参加させていただきました。

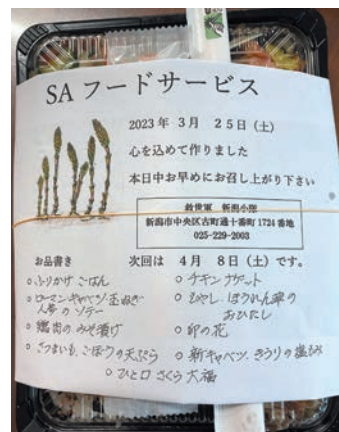


新潟小隊

●SAフードサービス

地域の高齢者の方々へ「食」の支援ができればと願い、小隊のキッチンの整備とともに小隊士官が「食品衛生責任者養成講習会」を受けるなど準備を整えました。2022年4月に正式にスタートして一年が経ちます。月に2回土曜日、一食300円で25食ずつ提供しています。3月25日(土)にもおこないました。

お弁当は季節のものを取り入れ、できるだけ火を通し、品目多く、見栄え良くまとめることを心がけています。掛け紙のお花、お品書き等は戦友が毎回書いています。口コミで広がり、「救世軍さん、お弁当のことを聞いたら私でも買えるの?」と問い合わせがあります。神様がこの時代にこの働きを新潟小隊にさせてくださっていることに感謝です。



トルコ・シリア地震救援社会鍋

●上野小隊、西新井小隊

2月19日(日)午後2~5時、二小隊合同で上野松坂屋前で実施しました。56,707円の協力が寄せられました。



●名古屋小隊

3月11日(土)松坂屋名古屋店前で、ブラスバンドや鼻笛の演奏と共に募金のアピールをしました。土曜日で人出が多く、子どもや若い方もご協力くださいました。「お年玉が残っているから」と言って、募金をしてくれた子どももいました。



●社会福祉部

4月2日(日)13~17時、上野不忍池弁天門前広場で実施しました。お花見でにぎわう上野公園で、骨董市のそばでの実施となり、多くの人が通りがかりご協力くださいました。今回の社会鍋は、「日本バーテンダー・ソムリエ協会」のご紹介で、地域のさくら祭りでのトルコ・シリア地震救援のチャリティイベントへの協力という形でおこなわれました。同協会の代表者中野様が、毎年上野松坂屋前の社会鍋に献金してくださっており、ぜひこの機会に社会鍋を出してほしいと依頼を受けたことがきっかけでした。救世軍は禁酒・禁煙の団体であり、アルコール依存症者の回復支援をおこなっていることをお伝えし、ご理解をいただいた上で、実施しました。当日は、自省館の協力を得て作成したアルコール依存症についての啓発パンフレット等も配布しました。



〈連載・第20回〉

神の呼びかけ ～神の民となるために～

(7) 内なる生活への呼びかけ

(承前) 断食については、いくつかのキリスト教文化では過去のものと考えられていますが、N.M. ヴィジャヤラクシミ (N. J. Vijayalakshmi) 少佐がインドの見解を委員会に伝えてくれました。

「一部のクリスチャンにとっては、断食は極端で狂信的に見えるかもしれませんが、聖書では、しばしば断食について言及されています。はじめから宗教と断食は一緒でした。宗教的な断食は、単に飲食をしないということではなく、安楽を犠牲にして絶えず祈るということです。ぜいたくや外出、性的なことや睡眠、また他にも、肉体を豊かにしても神様との時間を阻害する要因を、自分自身が引き上げられて神様の御臨在と聖性に与るために避けるということなのです。」

聖書は、様々な形の断食を示しています。モーセは十戒を授かる時に断食しています(出エジプト 24:18)。エリヤはイゼベルから逃れ絶望している時に断食しました。神様はその時彼のもとに來られました(列王上 19:5-8)。ダビデは悔い改めて7日間の断食をしました。ウリヤの妻バト・シェバとの不適切な関係で産まれた息子が死にかかった時、彼は嘆き悲しみ、神様に訴えました。イエスご自身も荒野で試みに遭われた時に、断食をなさっています。そのほかにも多くの例があり、神様との時間をもつことの価値が示されています。

ヴィジャヤラクシミ少佐は、さらに言います。「断食については2つの見解があります。1つは、それが命令であるというもの、もう1つは、それが奨励であるというものです。」英国エリザベス朝時代の著名なピューリタンであるトマス・カートライトは、「断食とは、主が命じられた節制であり、我々の悔い改めを厳かに宣言する行為である」と論じました。これに対し、ジョン・ブラウンは、キリストはこのような行為を命じなかったが、「神の国の子どもたちはそれをおこなうような主義の上に歩んでいる」と記しました。『山上の垂訓の研究』において、マルチン・ロイド・ジョーンズ博士は、イエスはあなたが断食をするから語りかけてくださるのではなく、断食をしている時に語りかけてくださるのだ、と指摘しています(マタイ 6:16)。

自己中心的な考えで断食をすることは危険です。「わたしたちを神様から離れさせるものは何か」と考えることも大切です。ヴィジャヤラクシミ少佐は指摘します。「断食に関しては個人的に有益であることが強調され過ぎています。つまり、力や聖霊の賜物、身体のいやし、祈りに対する応答、それらが与えられることを主張し、最も大切な観点が軽視されています。断食は、神様に向かってするものです。神様はわたしたちが何をするのかには関心をもたれず、なぜそれをするのかということを見ておられます。断食をするのは、神様に栄光と誉を帰

すためであり、神様の御心が成し遂げられるためです。」多くのクリスチャンにとって、とりわけ現代の重圧的な社会におけるクリスチャンのリーダーたちにとって、霊的な成長に関しては教師や霊的な指導者の助けを得ることが有効であると実証されています。霊的な指導者としての特性を挙げるなら以下のとおりです。

- 聖霊に満たされている人。霊的な指導者の特性としてまず挙げられるのは、神様に近く、聖潔の生活を送っている人です。
- 経験のある人。実際の祈りや生活の中で闘う経験をしたことのある人です。
- 学びの人。聖テレジアは霊的な指導者たちが学ぶことの優先度を高くしました。指導者は聖書と「御父の知恵」によく親しんでいる人でなければなりません。
- 思慮分別のある人。
- 理解力があり、識見があり、洞察力のある人。
- 聖霊にゆだねることを知っている人。聖霊を妨げないことは基本です。

霊的な指導は目的に達するための手段であり、目的に与えられるのは完全な自由を与えてくださる神様です。

霊的な黙想の価値は、近年の救世軍でも見直されています。士官たち、小隊内のグループ、あるいは指導的立場の人々、いずれも特に実務的な部分で新たにされ豊かにされることが明らかになっています。黙想とは、人を神様に近づけてくれるだけでなく、お互いにとっても交わりや目的において親しくなれる機会なのです。長年を通じ、救世軍は多忙であることが慣習となっていたため、あまり安息について考えてきませんでした。世界にストレスや重圧が増すにつれ、その価値がはっきりわかってきました。

救世軍人は常に忙しい。神様のために奉仕することが救世軍人の本質です。そうしているのは、わたしたちが天国で良い席を得るためではありません。それは無理なことですし、その必要もないのです。しかし、わたしたちが活動し続けるのであれば、同時に神様との時間も確保すべきでしょう。イエスが御父との交わりを大切になさっていたのですから、わたしたちも同様にすべきです。神様の導きや御力、そして御愛を受けなければ、御業に携わることなどできません。

質問

1. わたしたちは互いに日々、祈りの生活を優先するためにはどうしたらいいのでしょうか。
2. どうすれば、忠実で正しく持続した祈りを小隊生活の中心に置くことができるのでしょうか。
3. 祈りを反映した生活を送るにはどうしたらよいのでしょうか。
4. 自分の内なる生活を新たにする方法が見つかりましたか。

参考になる聖書箇所 ヨエル 2・12、マタイ 6・6、26・36～44、ルカ 2・37、マルコ 1・35、6・46、11・17、エフェソ 6・18、フィリピ 4・6、コロサイ 4・2～4、テサロニケ 5・17 (続く)

救世軍見解表明

社会道德に対する救世軍の立場 第9回「人種差別」(2)

人種差別についての見解表明

(承前)「人種」という言葉自体を用いることが論議されませんが、「人種」は一般的には、共通の民族性、国の起源、血統、皮膚の色などをもつ独特なグループを指す時に用いられます。救世軍はいかなる形の人種差別も非難します。

人種差別は、すべての人が神にかたどって造られ、同等の価値があるというクリスチャンの確信とは基本的に相いれないものです。救世軍は、文化や民族の多様性によって世界は豊かなものになる、と信じています。

救世軍は、人種差別は人類に対する神のお考えに反すると信じていますが、人種差別に傾く風潮がすべての人、すべての社会の中にあることを認めます。人種差別はいろいろな形で現れますが、部族主義、カースト主義、自民族中心主義などを含みます。人種差別は個人の態度の結果だけではなく、社会構造や社会システムによって永続されることもあるのです。人種差別が公然と、意図的におこなわれることがあります、そうでないこともよくあります。

多くの救世軍人たちは人種差別に対抗して、確固として、勇敢に立ち向かいますが、残念ながら、救世軍人たちが時には人種差別の罪に加担し、人種差別を続ける経済的、組織的、社会的圧力に屈してしまうことがあることを救世軍は認めるのです。救世軍は、人種差別がおこなわれる所で、それに反対して戦い、世界のどこであろうと、人種差別に出合う社会で、そのことについて声をあげるのです。

神の御心が天になるごとく、地にもなさせたまえ、と私たちは祈りますが、救世軍は、すべての人が受け入れられ、愛され、尊重される世界を目指して働くのです。

見解表明の背景と状況

等級に従って分類したり、差別するということは、人類の歴史の中で多くの社会においておこなわれてきたことです。しかしながら、皮膚の色のように、受け継がれた特質の相違に基づいた人種というものの考え方は、最近の世紀になって現れてきたものです。

人種についての考え方は、差別と殺人に関する恐ろしい政策を正当化するために用いられてきました。しかし、科学は、生物学的に異なる人類の存在を証拠立てるものがないことを示してきました。いわゆる人種グループ内の遺伝上の変異はあっても、人種グループ間の変異は少ないのです。

人種差別は、型にはまった傾向で現れ、劣っているとみなされた人々全体を周辺に追いやり、時には、脅迫するのです。人種差別は様々な形をとります。あからさま

な憎しみ、無関心、心配りをしないことなど。人種差別の結果として、多くの人が社会と関わりをもちその進展のために尽くすという機会をもてずにいます。人種区分は目立たないかもしれませんが、自民族中心主義、階級、植民地制度や外国人排斥システムなどの制度的生活の中に深く埋め込まれています。世界の多くの場所で、人種差別は、人々が収入、健康管理、正義、住居、教育、雇用、人権、人間の安全保障などを自分のものとするのを拒んでいるのです。

多くの人々にとって、人種差別的な構造と偏見は、世代間の影響や不利益を生み出してきました。それは制度や文化に包み込まれているので、人は知らず知らずのうちに、人種区分を永続させてしまうのです。

人種的偏見についてははっきりした表現には、すぐ気づくのですが、見つけ出そうと努力をしてはじめてわかる、捉えにくいものもあります。人種差別について訴えるためには、法律、システム、組織構造に関する指導力が必要です。また、一人ひとりが、考え方や振る舞いを変えていくことが必要です。

救世軍の立場の土台となるもの

聖書は、神が人間のすべての家族の価値を認め、愛しておられる、と示しています(エフェソ3:14~15)。人類は神にかたどって造られました(創世1:27)。人は一人ひとり、神の印を押されているのです(創世記9:6)。「神は、一人の人からすべての民族を造り出し」たのです(使徒17:26)。どの人も罪を犯しています(ローマ3:23)が、神はすべての人が救われることを望んでおられます(ペトロ二 3:9)。神はえこひいきをなさいません(ペトロ一 1:17、使徒10:34)

イスラエルの民は神の「選びの民」であるという考え方は、聖書的には重要ですが、この考え方は、しばしば、誤まって用いられてきました。聖書は、イスラエルは神に選ばれた民である、と言明しますが、それは彼らのもって生まれた優越性のためではないのです(申命7:7)。彼らが全人類の光となり、彼らを通して世界の救い主が来るためだったのです(創世12:3、イザヤ49:6)。

ユダヤ人たちが自分たちはサマリア人と共通なところは何もないと言ったことに、イエスは反対なさいました(ヨハネ4:1~42)。また、イエスは当時のユダヤ人たちがカナン人たちを見下していたことに出会いました(マタイ15:21~28)。復活の後、イエスは弟子たちに、行って、すべての民を弟子にしなさい、と命じられました(マタイ28:19)。聖霊が弟子たちを力づけ、「エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、私の証人となる」(使徒1:8)とイエスは約束されたのです。

このことは、ペンテコステの時に聖霊が注がれたことによって、さらに強められました。使徒言行録には15の民族と地域の名が挙げられています。(続く)





大部基男大人部書記 天に召さる

福山小隊の大部基男大人部書記は、2023年3月19日、入院中の病院において、気管支肺炎のため召天されました。94歳でした。

大部書記は、終戦後、1948（昭和23）年、尾道小隊で兵士入隊し、上京中は、神田小隊にも在籍しました。1958（昭和33）年、井口津留子と結婚、1967（昭和42）年、尾道小隊 大人部曹長、1991（平成3）年、福山小隊大人部書記の任を受け、すべての人の救いのために、と神と人にとに仕えられました。召天の朝も、日曜日であることがわかると、「小隊に行くでしょ？」と言われたそうです。信仰・伝道の模範として、救世軍士官であったご両親の姿がありました。大部書記は、小隊活動だけにとどまらず、ギデオン協会の働きにも携わり、熱心に活動しました。最晩年まで忠実な救世軍兵士・下士官として、尾道小隊・福山小隊を支え、救霊・奉仕の任を全うされました。

告別式は、3月22日（水）福山小隊士官友安渚中尉の司式で、福山小隊にて家族葬・友人葬で執りおこなわれました。前日の「お別れの時」には、多くの方が集いました。ご遺族の上に、神様の御慰めをお祈りいたします。（福山小隊報）

救世軍公報

任命
任中尉（三月十九日付）

吉田慎也候補生
補佐野小隊士官補佐（兼）関東東
北連隊本部付（三月二十三日付）
吉田慎也中尉

転任

補財務管理部付（兼）山室軍平記
念救世軍資料館付
三澤直規少佐

二〇二三年三月二十三日付
司令官

ステイブン・モーリス

新病院長
救世軍清瀬病院長

土居弘幸

二〇二三年四月一日付
司令官

ステイブン・モーリス

新施設長

ブリス記念老人保健施設クレ
イス施設長
救世軍恵みの家施設長
稲葉裕

中村知之
救世軍佐野保育園施設長
大里忠弘

札幌市しせいかん保育園施設
長
吉村政美

救世軍自省館施設長
高橋正隆

二〇二三年四月一日付

司令官

ステイブン・モーリス

医療部・社会福祉部・本営

●合同入職式

4月3日（月）、午前9時30分より、杉並小隊・総合センターにておこなわれました。各地の社会福祉施設、病院、本営に2023年度、また2022年度中に新たに入職した職員が出席しました。オンラインで各地の施設から参加された方もありました。最初に礼拝の時がもたれ、軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐の挨拶と証言、司令官ステイブン・モーリス大佐がメッセージをしました。続いて吉田真中将より講演「救世軍医療事業及び社会事業の理念について」がなされ、休憩をはさんで、「日本と世界の救世軍の働きについて」理事長・社会福祉部長石川一由紀少佐よりレクチャーがありました。新年度を迎え、入職された方々が守られ強められて、良き働き

が進められるよう、祈る時となりました。（参加者65人、オンライン参加者14人、スタッフ18人）

NEWS!!
NEWS!!

各地のニュース!!



本営

●社会鍋へのご寄付贈呈式



4月10日（月）、救世軍のICT技術のためお世話になっている株式会社コーディネートの社長西野幸典様、営業責任者伊賀太樹様、技術部長岩出浩一様が本営に来訪され、社内で一年間実施した社会鍋のご献

金をお届けくださいました。月に一度おこなっている本営祈祷会の後に、贈呈の時をもちました。司令官から感謝の言葉があり、西野社長が、「企業は業績を上げることだけが活動の目的ではなく、社会に貢献する責任がある。救世軍の社会貢献の働きをこのような形で支援できることを喜んでいる」とご挨拶くださいました。社会鍋、救世軍へのご理解とご支援に心から感謝する時でした。

●緊急時対応講習会

3月27日（月）、緊急時の救命救急対応の講習会があり、本営職員、士官、神田小隊士官が参加しました。また、避難経路や緊急時備蓄品の確認をしました。

最高会議 その内容

英国、サンベリーコート（救世軍の会議場）に、世界の各軍国から最高会議メンバーが集まる



- 最高会議メンバーは：
- 現役の中将で、軍国司令官、万国本営または軍国本営、軍国指導者の任にある者
(現大将の配偶者は除く)
 - 大佐の階級をもつ軍国司令官
 - 大佐の階級をもつ軍国指導者



現役士官であれば誰でも指名の対象となる—
世界には
16,000人
以上の現役士官がいる

法律顧問、通訳者、記者、記録者などの事務局が、最高会議の円滑な運営をサポートする

会議が候補者とその配偶者に質問事項を用意する
その数は…



次期大将への選出が確定するには、候補者は投票で…

第1回から第3回までのいずれかの投票で、会議員の3分の2以上の票を得る

第4回以降の投票は会議員の過半数の票を得る



会議の流れ

会議が招集され、祈りと礼拝で始まる

議長、副議長、チャプレンが選出される

最高会議が「最高会議手続書」に合意

全体会議で、選挙に関連する事項を審議する

会議員が、次期大将にふさわしいと思われる者を指名する

指名の受諾または辞退

候補者が質問事項に回答し、スピーチをおこなう

投票

次期大将が選出される

最高会議の部屋の扉が開かれ、議長が新任の次期大将を発表する。このニュースはライブストリーミングで世界中に配信されます。



ブライアン・ペドル大将の引退に伴い、第22代救世軍大将を選出するための「最高会議」が5月18日(木)から開かれます。日本軍国からは司令官夫妻が会議員として出席します。「最高会議」の内容について紹介します。

5月20日(土)午後3時30分(英国時間)から、公開の歓迎及び、ペドル大将夫妻の奉仕への感謝を表す集会在ロンドンでおこなわれます。オンラインライブ配信万国本営ホームページにて www.salvationarmy.org/ihq

「最高会議のための祈り」救世軍ホームページで公開中。指導者方のため祈りましょう。



会場となるサンベリーコート

7月16日(日)～
8月31日(木)
こども伝道週間

7月、8月 夏期聖書学校、キャンプなど(各連隊・小隊)

医療サンデー 6月4日

救世軍の医療の働きと共に全世界の医療従事者のため、祈りましょう。今も続く新型コロナウイルスや様々な課題の中で働く医療従事者を覚えて、神様のお守りとお導きを祈りましょう。

救世軍創立158年記念コンサート

6月11日(日)午後3時

第7回救世軍社会鍋餅句コンテスト受賞作発表

会場：山室軍平記念ホール

(対面の集会在基本となります)

母の日

5/14

(日)



発行日及び定価

▼発行日
福喜版・毎月一日発行
広報版・奇数月十五日発行

▼定価

福喜版・一部 四〇〇円
広報版・一部 一〇〇円
クリスマス特集号(十二月一日号) 一〇〇円
振替・〇〇一八〇一五四四〇〇

発行兼 救世軍
印刷人 代表者ステイブ・モリス
編集人 山谷 真

〒101-0051 東京都千代田区
神田神保町二丁目十七番
電話 東京(03)三三七〇八八一

発行所 救世軍本営
印刷所 株式会社ヒートプレス

(取扱支部)

創立者 ウィリアム・ブライス 大将 ブライアン・ペドル (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 ステイブ・モリス (救世軍本営 東京都千代田区) <https://www.salvationarmy.or.jp>